

| | |
|---------------|---|
| Title | ＜お知らせ＞大阪・コペンハーゲン学術交流協定 |
| Author(s) | |
| Citation | 大阪大学言語文化学. 2 p.142-p.143 |
| Issue Date | 1993-03-31 |
| oaire:version | VoR |
| URL | https://hdl.handle.net/11094/78188 |
| rights | |
| Note | |

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

お知らせ

大阪・コペンハーゲン学術交流協定

平成4年6月に「大阪大学言語文化部ならびに同大学院言語文化研究科とコペンハーゲン大学との間の学術交流協定」(Agreement on Academic Exchange between the University of Copenhagen and the Faculty of Language and Culture and the Graduate School of Language and Culture, Osaka University)が締結されました。協定書は、日本側、デンマーク側それぞれ2名の代表者、すなわち、齊藤俊雄大阪大学言語文化部長、奥田博之言語文化研究科長、オーウェ・ナァータン コペンハーゲン大学長、レイフクリステンセン コペンハーゲン大学国際局長によって署名されています。コペンハーゲン大学側のコーディネーターはアールネ・チェタステーン英語研究所教授、大阪大学側のそれは、言語文化部の今井光規教授です。協定の正文は英語で書かれており、コペンハーゲン大学国際局と本学言語文化部庶務にそれぞれ一通づつ保管されています。以下、大阪大学側の参照文書として協定書に添付されている日本語訳文を紹介します。

大阪大学言語文化部並びに同大学院言語文化研究科と コペンハーゲン大学との間の学術交流協定 (日本語訳文)

大阪大学言語文化部・同大学院言語文化研究科及びコペンハーゲン大学は、学術交流に関する以下の協定を結ぶことに同意する。

上記の機関は、それぞれの大学における教育及び学術研究の向上に資すると思われる分野において、下記の項目について学術交流を推進することに同意する。

1. 共同研究、講義、シンポジウム等の実施とこれに伴う教官、研究者の交流
2. それぞれの機関が相互に関心を有する分野における情報及び学術資料の交換
3. 上記1以外の研究者の交流
4. 学生の交流

この協定に基づく交流を実施する際に必要となる事項については、そのつど関係当事者間で協議するものとする。また、教官、研究者あるいは学生の交流については、適切な措置を講じることを可能にするため、書面によって事前に関係機関の同意を得るものとする。

この協定に基づく交流を推進するための資金については、原則として、教官、研究者及び学生の所属する機関が負担するものとする。特別な場合においては、受け入れ側機関が資金を提供するという事前の合意により、この原則を修正することが出来る。

本協定は、大阪大学言語文化部長、同大学院言語文化研究科長およびコペンハーゲン大学長による本協定署名完了の日に効力を生じるものとする。また、それぞれの機関は文書による1年前の予告により、本協定を終了することが出来るものとする。

1992年 5月27日

(署名)

大阪大学言語文化部長

齊藤俊雄

(署名)

大阪大学大学院言語文化研究科長

奥田博之

1992年 6月12日

(署名)

コペンハーゲン大学長

オーウェ・ナア・タン

(署名)

コペンハーゲン大学国際局長

レイフ・クリステンセン

なお参考までに、大阪大学言語文化部発行の「言文だより」, No. 10 (1993年3月)に、この協定の締結を記念して、齊藤俊雄言語文化部長、フレミング・ヘデゴ駐日デンマーク大使、アールネ・チェタステーン英語研究所教授（コペンハーゲン大学側コーディネーター）、今井光規言語文化部教授（大阪大学側コーディネーター）の4人の方々による英文の記事が掲載されています。「大阪・コペンハーゲン学術交流協定締結によせて」(“Copenhagen-Osaka Academic Exchange Agreement Concluded”)という題のもとに、コペンハーゲン大学への挨拶の言葉、デンマークにおけるフィロロジーの歴史、コペンハーゲン大学における（とくに英語・英文学関係の）国際学術交流の現状、この交流協定の締結に至るまでの経緯、コペンハーゲン大学の簡単な紹介などが収められています。

この学術交流協定について質問や意見その他ご用のおありの方は、上記大阪大学側コーディネーターにご連絡ください。